

人権に関する児童生徒意識調査【概要版】

調査の目的

人権に関する児童生徒意識調査は、高知県内の小・中・高等学校児童生徒を対象に人権に関わる意識を調べることによって、人権意識や人権課題に対する児童生徒の実態を把握し、今後の人権教育施策に反映させていくことを目的としています。

調査の対象

- 高知県内小・中・高等学校児童生徒：1,598名
(小学5年生 516名／中学2年生 514名／高校2年生 568名)
- 回収数：小学校 514／中学校 510／高等学校 554 合計 1,578
- 回収率：小学校 99.6％／中学校 99.2％／高等学校 97.5％

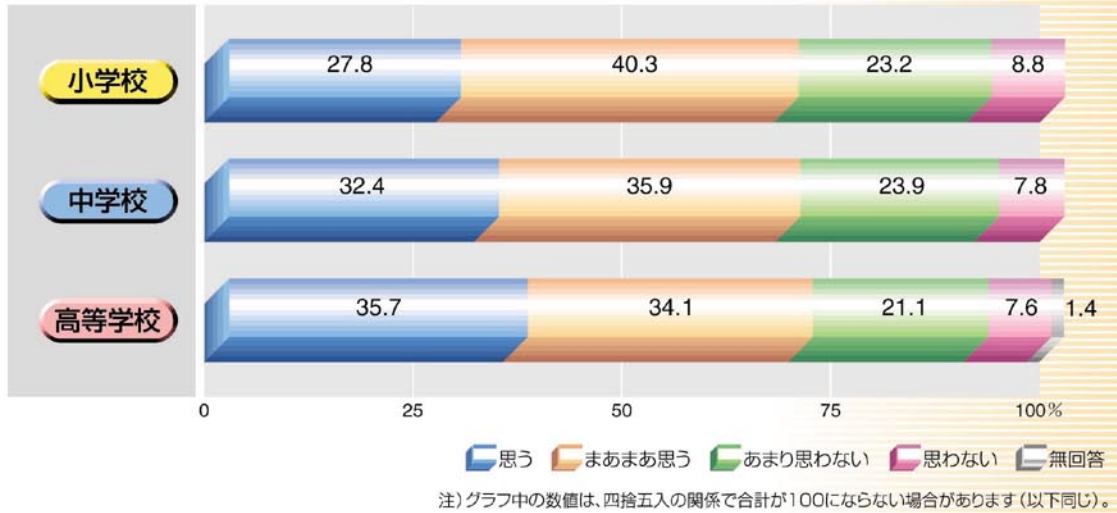
調査の実施期間

- 2002(平成14)年10月4日～11月5日



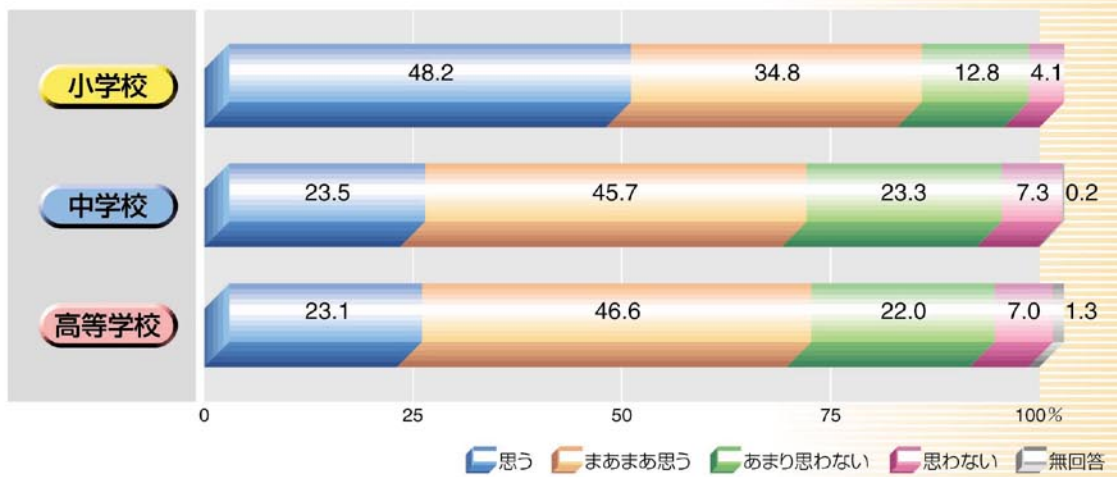
7 「自尊心※にががわること」について

あなたは、自分には自分なりの良さがあると思いますか



「自分には自分なりの良さがあると思う」児童生徒は、小学校が27.8%、中学校が32.4%、高校が35.7%となっており、これに「まあまあ思う」を加えると、小学校で68.1%、中学校では68.3%、高校では69.8%と、7割弱を占め、学年が上がるにつれてそう思う割合が高くなっています。

あなたは、困難な問題にぶつかっても、自分なりに解決できると思いますか



「自分なりに何とか問題を解決できると思う」児童生徒は、小学校で48.2%、中学校が23.5%、高校が23.1%となっています。これに「まあまあ思う」を加えると小学校では8割を超え、中・高校が7割弱となっています。一方、「思わない」、「あまり思わない」を加えた結果は、小学校で16.9%、中・高校が3割前後となっており、中・高校に比べ、小学校は問題解決に自信を持っている割合が高い傾向が見られます。

※ 自分をかけがえのない存在として認め、自分自身を好きだと思ふ気持ち。

2

「いじめや差別」について

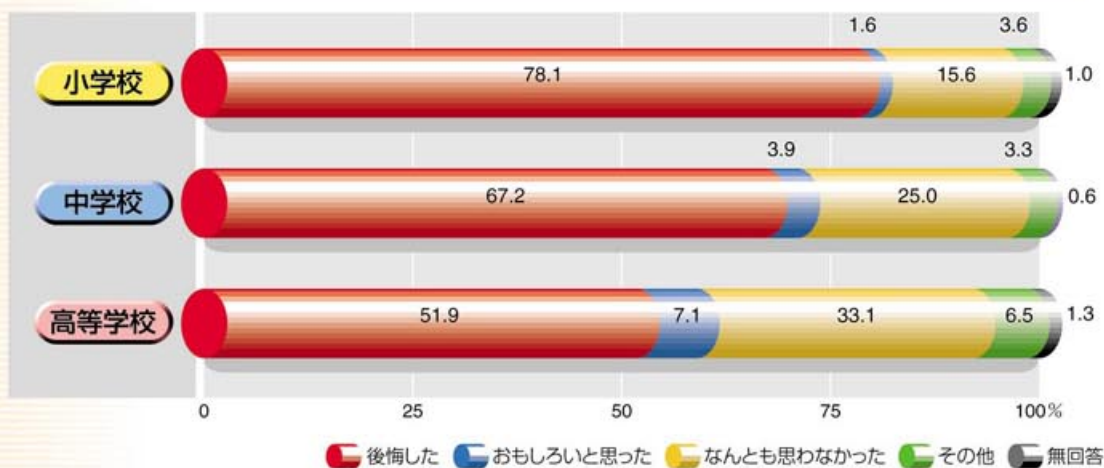
人からいじめや差別を受けた時、どうしましたか



「いじめや差別を受けたことがある」児童生徒は、小学校で33.9%、中学校で22.9%、高校が24.2%となっています。

「その時どうしたか」については、小学校は「やり返した」とする割合が最も高く32.8%を占めています。中・高校は「だれかに相談した」という割合が高く、それぞれ31.6%、37.3%となっています。「何もしなかった」という割合も中・高校で高く、ともに3割を超えています。

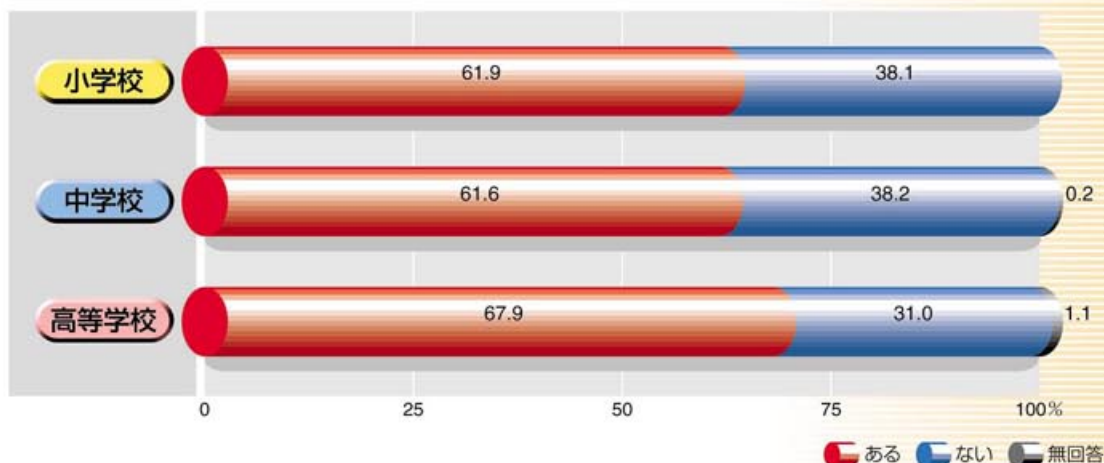
いじめや差別をしたあと、どのように思いましたか



「いじめや差別をしたことがある」児童生徒は、小学校で37.4%、中学校で35.3%、高校で27.8%となっています。

「いじめをしたあとでどのように思ったか」については、各学年とも「後悔した」が最も高いものの、学年が上がるにつれてその割合は78.1%、67.2%、51.9%と低くなっています。一方、「おもしろいと思った」、「なんとも思わなかった」は、逆に学年が上がるにつれてその割合は高くなっています。

あなたは、いじめや差別をしているのを見たことがありますか



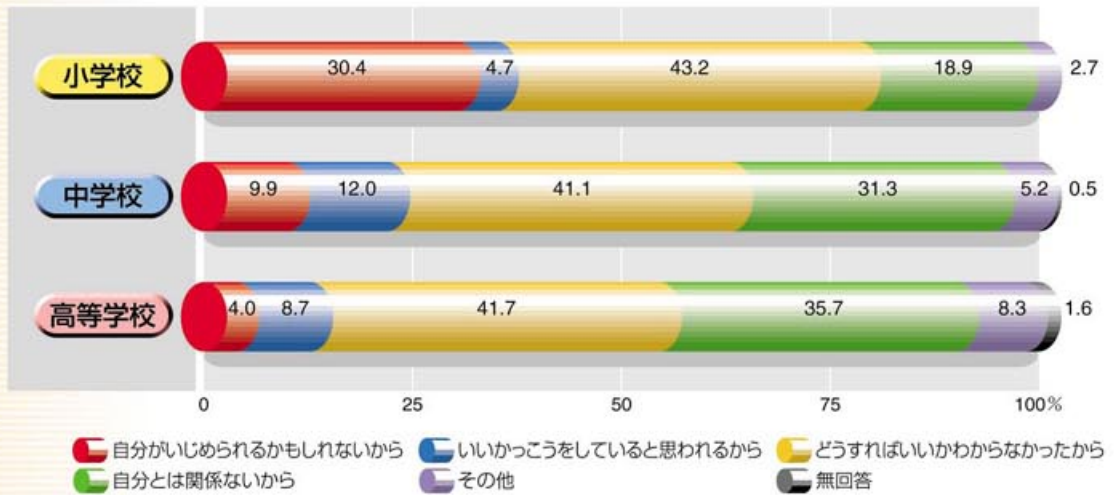
「いじめや差別をしているのを見たことがある」児童生徒は、小学校61.9%、中学校61.6%、高校67.9%といずれも6割を超えており、見たことのある児童生徒の割合は高くなっています。

いじめや差別をしているのを見た時、あなたはどうしましたか



「いじめや差別を見た時どうしたか」については、各学年とも「何もなかった」という回答が最も多く、小学校は46.5%、中・高校はそれぞれ61.1%、67.0%と高い割合を占めています。一方、「やめるように説得した」、「人に知らせた」を合わせた割合は、小学校が50.0%であるのに比べ、中・高校はそれぞれ29.9%、25.8%と3割に満たない結果となっています。

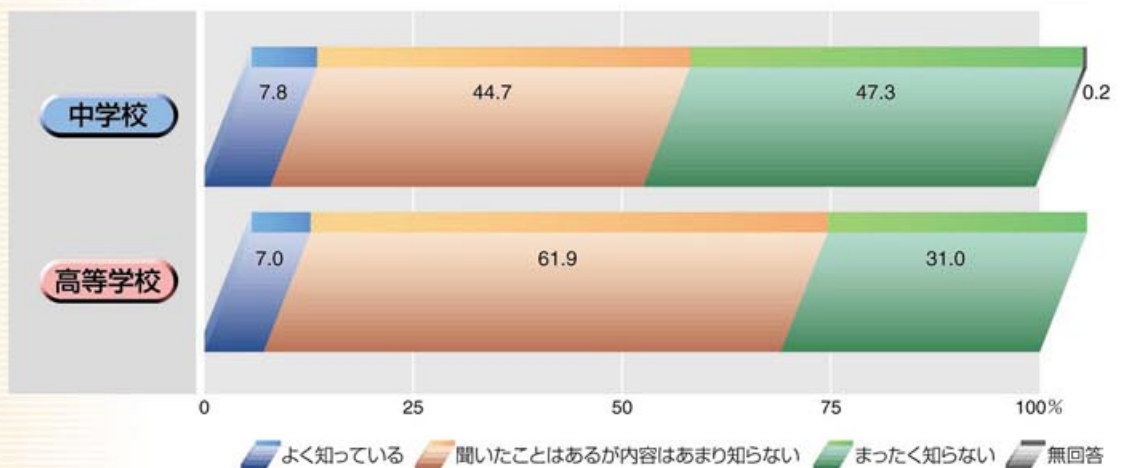
いじめや差別を見た時、どうして何もしなかったのですか



「いじめや差別を見た時、どうして何もしなかったか」については、各学年とも「どうすればいいかわからなかったから」という回答が最も多く、小学校43.2%、中学校41.1%、高校41.7%となっています。次いで、小学校では「自分がいじめられるかもしれないから」が30.4%と高い割合を占め、中・高校は、「自分とは関係ないから」がともに3割を超えています。

3 「人権問題に対する認識や態度」について

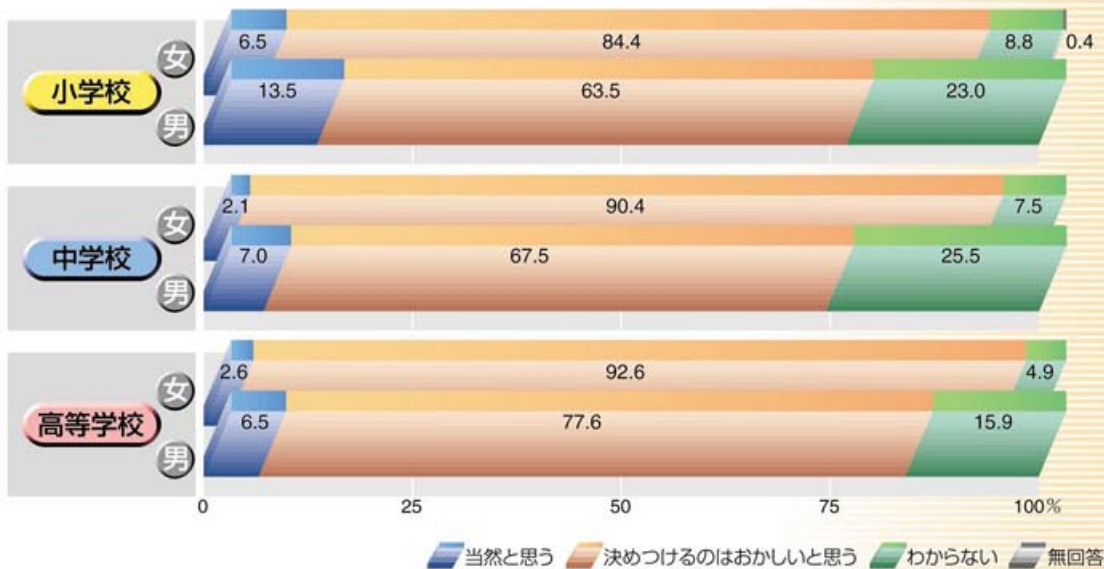
あなたは、「子どもの権利条約^{*}」を知っていますか



「子どもの権利条約」について「よく知っている」生徒は、中学校7.8%、高校7.0%です。「聞いたことはあるが内容はあまり知らない」生徒は、中学校44.7%、高校61.9%であり、「まったく知らない」と回答したのは、それぞれ47.3%、31.0%で、中・高校とも9割以上が「内容はあまり知らない」か「まったく知らない」という結果になっています。

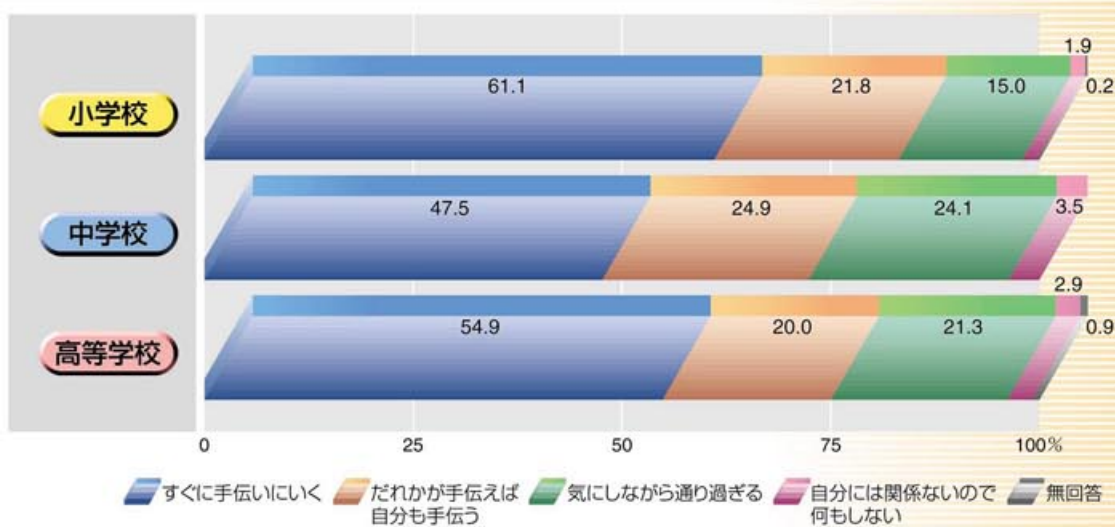
^{*}子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)
基本的人権が子どもにも保障されるべきことを国際的に定めた条約。1989(平成元)年11月20日に国連総会において採択され、日本は1994(平成6)年4月22日に批准。

「家事（炊事・洗濯・掃除）は女性がするものだ。」という考え方について、あなたはどのように思いますか



「家事（炊事・洗濯・掃除）は女性がするものだ」という考え方について、各学年の男女別に見てみると、いずれの学年の男女とも「決めつけるのはおかしいと思う」という回答が最も多く、学年が上がるにつれその割合は高くなる傾向にあります。特に各学年とも女性の割合が高く、中・高校では9割を超える結果となっています。

車イスにのった人が、道に段差があって進めなくて困っています。あなたはその時どうしますか



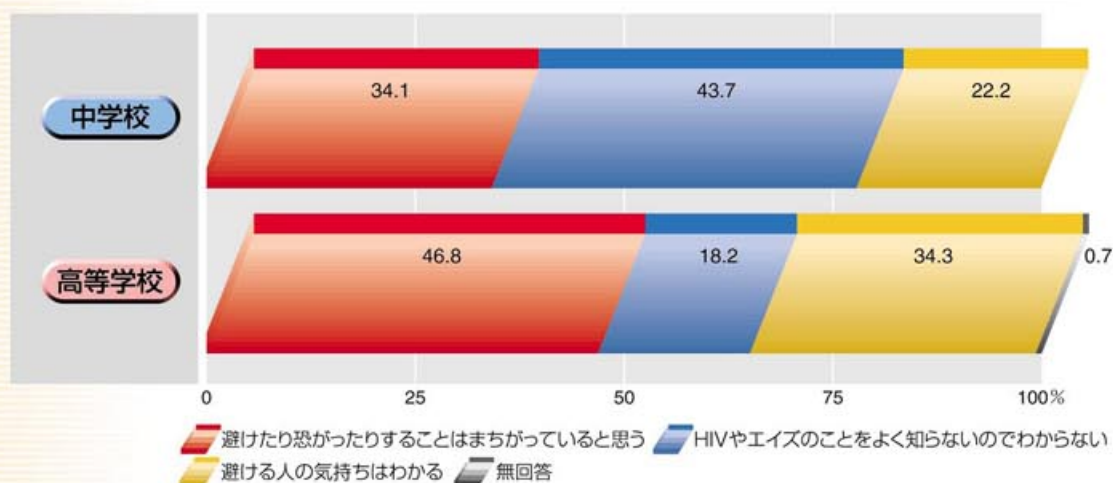
「車イスにのった人が進めなくて困っている時どうするか」については、いずれの学年も「すぐに手伝いに行く」割合が最も高く、小学校61.1%、中学校47.5%、高校54.9%となっています。次いで、小・中学校は「だれかが手伝えば自分も手伝う」割合が高くなっていますが、高校は「気にしながら通り過ぎる」が続いています。

ある人から、「あの人は〇〇町に住んでいるので、つきあうのはいいけど、気をつけた方がいいよ。」と言われました。その時あなたはどうしますか



「『〇〇町に住んでいるので気をつけた方がいい』と言われた時どうするか」については、中・高校ともに「なぜそんなことを言うのか理由を聞く」割合が最も高く、それぞれ65.3%、61.9%となっています。次いで「その人の言うことは差別なので反論する」割合が高く、2つの回答を合わせると、中学校78.8%、高校74.4%となっています。また、「自分には関係ないので何もしない」、「その人の言うことは差別だとは思いますが、何も言わない」という回答が高校で1割程度となっています。

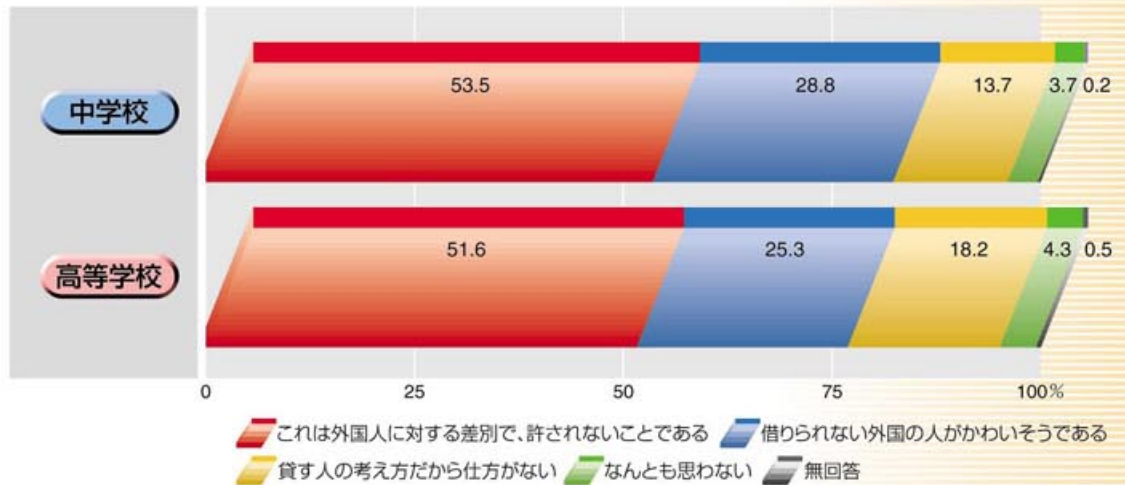
HIV感染者やエイズ患者*の人を避けたり恐がったりする人がいることに対して、あなたはどう思いますか



「HIV感染者等を避けたり恐がったりする人に対してどう思うか」については、中学校が「HIVやエイズのことをよく知らないのでわからない」43.7%、次いで「避けたり恐がったりすることはまちがっていると思う」割合が34.1%となっています。高校は「避けたり恐がったりすることはまちがっていると思う」割合が46.8%と最も高く、次いで「避ける人の気持ちはわかる」割合が34.3%となっています。

* HIV(Human immunodeficiency virus =ヒト免疫不全ウイルス)とは、一連のHIV感染症の原因ウイルスのこと。AIDS(Acquired immunodeficiency syndrome =後天性免疫不全症候群)という病気はこのHIVの感染によって起こるHIV感染症の末期状態を指す。感染から発病までの期間は人によって様々であり、ほとんどの場合感染しても症状がない。2002(平成14)年12月現在、日本のエイズ患者数2,549人、HIV感染者数5,121人(厚生労働省調べ)となっている。

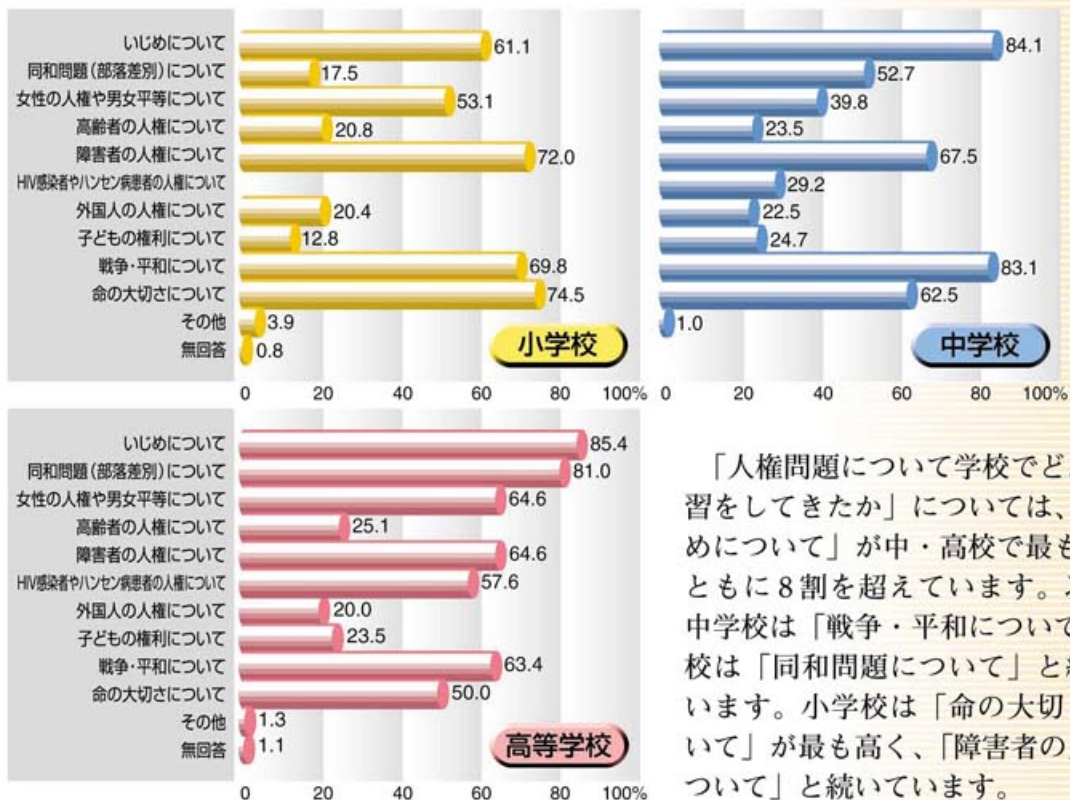
ある外国の人が、「外国人だから」という理由でアパートを借りることを断られました。このことについて、あなたはどのように思いますか



「『外国人だから』という理由でアパートを借りることを断られたことについてどう思うか」は、中・高校ともに「これは外国人に対する差別で、許されないことである」割合が半数を超え、それぞれ53.5%、51.6%となっています。次いで、「借りられない外国の人がかわいそうである」、「貸す人の考え方だから仕方がない」と続いています。

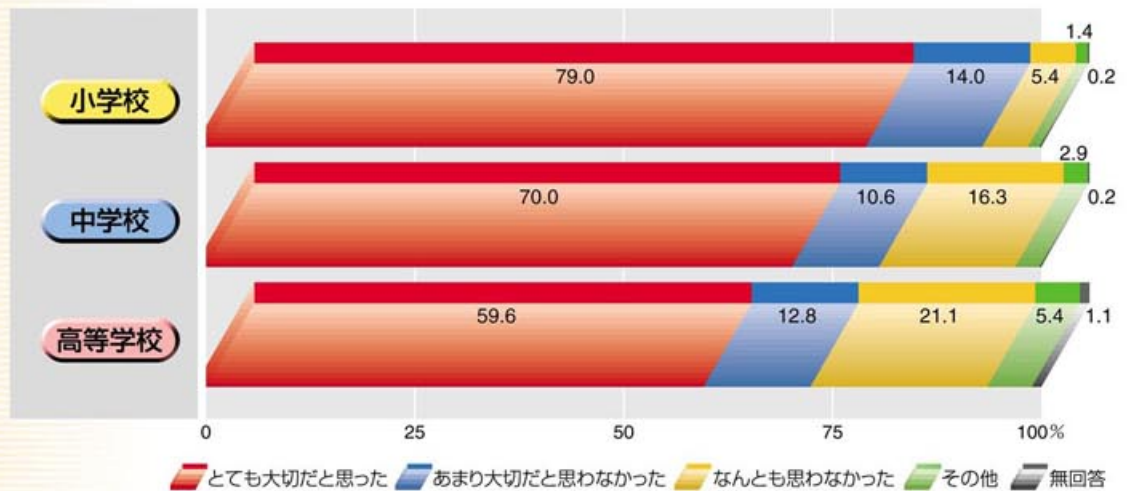
4 「人権学習に対する考え」について

あなたは、今まで人権問題について、学校でどんな学習をしてきましたか



「人権問題について学校でどんな学習をしてきたか」については、「いじめについて」が中・高校で最も高く、ともに8割を超えています。次いで中学校は「戦争・平和について」、高校は「同和問題について」と続いています。小学校は「命の大切さについて」が最も高く、「障害者の人権について」と続いています。

あなたは、学校での人権学習についてどう思いましたか



「学校での人権学習についてどう思ったか」については、いずれの学年も「とても大切だと思った」割合が最も高く、小・中学校では7割を超えています。一方、「あまり大切だと思わなかった」割合は、小学校14.0%、中学校10.6%、高校12.8%と学年による差はあまり見られません。また、「なんとも思わなかった」は、中・高校に比較的多く、学年が上がるにつれてその割合が高くなる傾向が見られます。

あなたは、人権問題について、これからどんな方法で学習をしていきたいですか



「人権問題について、これからどんな方法で学習していきたいか」については、「ビデオや映画を見る」の割合が中・高校で最も高くなっています。次いで中学校は「先生の話聞く」、高校は「さまざまな人から体験談を聞く」と続きます。小学校は「先生の話聞く」が半数を超えて最も高く、「本やインターネットで調べる」、「体験的な学習をする」と続いています。